

シニア世代のパソコン学習に対するニーズについての検討 —生涯学習に係る意識調査の二次分析をもとに—

伏木田 稚子

東京都立大学 大学教育センター、システムデザイン研究科 (兼務)

fushikida-wakako@tmu.ac.jp

Consideration of Seniors' Needs for Computer Learning -Based on a Secondary Analysis of a Survey of Lifelong Learning

Wakako Fushikida

University Education Center, Graduate School of Systems Design, Tokyo Metropolitan Univ.

概要

本研究では、「パソコン学習に対するシニア世代のニーズには、どのような特徴があるのか」という RQ (Research Question) について検討した。東京都在住の 50 歳から 70 歳までの男女 3,000 名の調査データを二次分析した結果、1) 男性よりも女性の方が、教育機関等でのパソコン学習の意欲が高い、2) カルチャーセンターやカルチャースクールでのパソコン学習は、性別を問わず受け入れられやすい、3) 性別を意識するのであれば、男性向けには大学で、女性向けには市区町村でパソコン学習の機会を設けるとよいことが示唆された。

1 背景

シニア世代にとって、ICT (情報通信技術) の活用はどのような価値をもたらすのだろうか。[1] によると、パソコンやスマートフォンでインターネットを利用できる 65 歳以上の高齢者は、そうでない人たちに比べて、社会参加の機会や友人が多いことが指摘されている。現実問題としてインターネットトラブルの急増も指摘されるが、ICT は高齢者の心を豊かにし、暮らしに刺激や張りを与える必需品になりうるという [2]。

日本、アメリカ、ドイツ、スウェーデンの 60 歳以上を対象とした国際比較調査 [3] の結果、すべての国で 8 割程度の高齢者が、携帯電話・スマートフォンで家族や友人と連絡をとっている状況が示された。インターネットでの情報収集やショッピングの割合も全体的に増加した一方、情報通信機器を利用しない理由については、使い方がわからず面倒という点が上位に入っていた。特に日本では他国に比べて、パソコンは 3 割程度、タブレットは 1 割程度と機器の利用率も低い。

こうした状況に関して、高齢者のパソコン利用の障壁になるのは、やる気、難しさ、ウイルスや詐欺などのリスクだとされている [4]。[5] が論じたように、現在のシニア世代は、初等から高等

教育までの各学校段階を通じた体系的な情報教育を受けていない。そのため、職場での経験を除くと、パソコンに慣れ親しむ機会は、カルチャーセンターや市民講座などへの参加に限られる。

2 問題と目的

高齢者に対する ICT 利活用の支援として、自治体、機器の製造企業、NPO 団体を中心にさまざまな取り組みが行われている [1]。大学教員によるパソコン教室の開催 [6]・[7] や、継続的で体系的な生涯学習における情報リテラシー教育 [5] など、大学主体の実践もいくつかある。しかし、シニア世代の現状を把握した上で、パソコンの学習機会について検討する試みは、十分とはいえない。

そこで、「パソコン学習に対するシニア世代のニーズには、どのような特徴があるのか」という RQ (Research Question) を立て、探索的に明らかにすることを本研究の目的とした。現在の学習意欲、各種教育機関への興味などを調査し、性別による違いを考慮しながら、パソコンの学習意欲との関係を考察する。

3 方法

東京都立大学管理部プレミアム・カレッジ企画運営係より、「令和 2 年度 シニアの生涯学習ニー

ズ等に係る調査」の回答データの提供を受けた。当該調査は、継続的かつ安定的なシニア教育の推進を目指し、東京都立大学プレミアム・カレッジの効果的な事業構築につなげていくことを目的に実施された。

3.1 調査の手順

株式会社アダムスコミュニケーションにより、東京都（島しょ部を除く）在住の50歳から70歳までの男女10,000名を対象に、インターネット調査が行われた。有効回答率を30%として、性別、年齢（50代、60代、70代）、居住地域（区部、市町村部）で区分が設定され、都の人口構成比に準じるよう割付が決められた。調査期間は、2021年2月12日（金）～17日（水）であった。

質問項目は、回答者属性（性別、年齢、居住地域、職業、最終学歴など）にはじまり、50歳以降に学んだ教育機関等、今後学んでみたいこと・教育機関等、50歳以上を対象にした大学への興味などで構成された。

3.2 分析項目

(1) 教育機関等での学習意欲

「今後、大学や専門学校、カルチャーセンター、市区町村の講座、英会話スクール等の教育機関等で、どの程度学んでみたいですか。（単一選択）」という教示文が提示された。選択肢は、「非常に学んでみたい」「学んでみたい」「どちらとも言えない」「あまり学びたくない」「全く学びたくない」の5段階評定であった。

(2) 教育機関等への興味

「今後、学んでみたい教育機関等があれば、すべてお答えください。（複数選択）」という教示文が提示された。選択肢は、「大学学部」「大学院」「大学学部での科目等履修・聴講」「大学の公開講座」「専門学校」「カルチャーセンター／カルチャースクール」「市区町村の講座」「英会話スクール／語学学校」「その他」「特になし」であった。

(3) パソコンの学習意欲

「今後、学んでみたいことをお答えください。（複数選択）」という教示文が提示された。選択肢は計21あり、そのうち「パソコン」を選んだ人はパソコンの学習意欲があるとみなした。

4 結果

4.1 教育機関等での学習意欲の実態

教育機関等で学んでみたい程度を学習意欲とし、性別により3,000名のデータを層化した上で、

度数分布表を確認した。男性では「非常に学んでみたい（87名、5.95%）」と「学んでみたい（310名、21.19%）」を合わせた397名（27.14%）に、女性では「非常に学んでみたい（111名、7.22%）」と「学んでみたい（436名、28.37%）」を合わせた547名（35.59%）に、学習意欲があると示された。

性別が教育機関等での学習意欲に与える影響を調べるため、Mann-WhitneyのU検定（対応のない平均順位の差の検定）を行った。その結果、女性は男性よりも学習意欲が有意に高いが、効果量は小さいことが示された（ $U(1) = 1008280.50$, $p = .00$, $r = .09$, $95\%CI = [.06, .13]$ ）。

4.2 パソコンの学習意欲の実態

教育機関等での学習意欲があると示された944名（男性397名、女性547名）について、学んでみたいことの選択肢のうち「パソコン」に着目する。性別によりデータを層化した上で、度数分布表を確認した。男性では96名（24.18%）、女性では178名（32.54%）に、パソコンの学習意欲があると示された。

性別とパソコンの学習意欲との関係性を調べるため、 χ^2 検定を行った。その結果、性別とパソコンの学習意欲との間で有意な弱い関連がみられた（ $\chi^2(1) = 7.80$, $p = .01$, Cramer's $V = .09$ ）。残差分析では、女性は男性よりも、パソコンの学習意欲がある人が多いことが示唆された。

4.3 教育機関等への興味とパソコンの学習意欲との関係

教育機関等での学習意欲があると示された944名（男性397名、女性547名）のデータを性別により層化した上で、教育機関ごとに度数分布表を確認した。教育機関等への興味がある人の割合が1割を超えたのは、男性では「カルチャーセンター／カルチャースクール（170名、11.62%）」「大学の公開講座（166名、11.35%）」、女性では「カルチャーセンター／カルチャースクール（313名、20.36%）」「市区町村の講座（273名、17.76%）」「大学の公開講座（238名、15.48%）」「英会話スクール／語学学校（176名、11.45%）」であった。

教育機関等への興味とパソコンの学習意欲との関係性を調べるため、教育機関ごとに χ^2 検定を行った。その結果、男性では「大学学部（ $\chi^2(1) = 4.13$, $p = .04$, Cramer's $V = .10$ ）」「カルチャーセンター／カルチャースクール（ $\chi^2(1) = 6.66$, $p = .01$, Cramer's $V = .13$ ）」「英会話スクール／語学学校（ $\chi^2(1) = 11.93$, $p = .00$, Cramer's $V = .17$ ）」

について、パソコンの学習意欲との間で有意な弱い関連がみられた。

女性では、「専門学校 ($\chi^2(1) = 21.53, p = .00, \text{Cramer's } V = .20$)」「カルチャーセンター／カルチャースクール ($\chi^2(1) = 6.81, p = .01, \text{Cramer's } V = .11$)」「市区町村の講座 ($\chi^2(1) = 12.23, p = .00, \text{Cramer's } V = .15$)」について、パソコンの学習意欲との間で有意な弱い関連がみられた。残差分析からは、性別および教育機関等の種類に関わらず、教育機関への興味がある人はそうでない人よりも、パソコンの学習意欲がある人が多いことが示唆された。

5 考察

「4.1 教育機関等での学習意欲の実態」および「4.2 パソコンの学習意欲の実態」から、女性は男性に比べて、教育機関等での学習やパソコン学習により意欲的だといえる。さらに、「4.3 教育機関等への興味とパソコンの学習意欲との関係」について、学習機会の実現可能性を考慮して結果を解釈すると、男性では「大学学部」に、女性では「市区町村の講座」に、男女ともに「カルチャーセンター／カルチャースクール」での学習に興味がある人は、パソコンの学習意欲が比較的高いと考えられる。

以上を踏まえると、パソコン学習に対するシニア世代のニーズとしては、以下の 1.~3.の特徴を導き出せよう。

1. 男性よりも女性の方が、教育機関等でのパソコン学習の意欲が高い
2. カルチャーセンターやカルチャースクールでのパソコン学習は、性別を問わず受け入れられやすい
3. 性別を意識するのであれば、男性向けには大学で、女性向けには市区町村でパソコン学習の機会を設けるとよい

シニア世代にとって、よりよいパソコンの学習機会とは何かを広く議論するためにも、生涯学習の経験や教育機関等への期待なども考慮しながら、調査データの二次分析を続けていく。

謝辞

調査の実施ならびにデータの提供にご協力くださった皆様に、深く感謝いたします。

参考文献

- [1] 近藤則子、高齢者の ICT 利活用の課題と対策 2016—拡がり続ける情報格差、地域 IoT 実装推進タスクフォース 人材・リテラシー分科会 (第 3 回) 配布資料 (https://www.soumu.go.jp/main_content/000458086.pdf)、2016.
- [2] 公益財団法人長寿科学振興財団、高齢者の ICT 利活用の支援、健康長寿ネット (<https://www.tyojyu.or.jp/net/kenkou-tyoju/koreisha-ICT/koreisha-ICT-rikatsuyo-shien.html>)、2019.
- [3] 内閣府、7. 友人・知人との交流・社会活動、情報収集、第 9 回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査 (全体版) (https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/r02/zentai/pdf/3_7.pdf)、2021.
- [4] 内藤由美、特集 2：高齢者のパソコン利用に寄り添う一心と暮らしを豊かに、日経パソコン、866、30-41、2021.
- [5] 伏木田稚子、永井正洋、シニア世代の生涯学習を支える情報リテラシー教育の実践要件に関する検討—TMU プレミアム・カレッジの実態を例に一、日本教育工学会論文誌、45、2、159-172、2021.
- [6] 加藤芳信、大学における市民対象パソコン教室の実践と評価、福井工業大学研究紀要、44、374-385、2014.
- [7] 小松裕子、小郷直言、高齢者とパソコン—山田村の事例を中心に—、高岡短期大学紀要、14、27-38、2000.